



●色彩データ・ライブラリの利用 -1

色彩データライブラリが開設されて、約一年が経過し、その利用はわずかなようです。

利用する前に内容を把握できないという、不便が解消していない点があります。

タイトルだけでの購入に躊躇されるのはよくわかりますが、一点百円というコストパフォーマンスを利用してはいかがでしょう。

入手方法は、事務局にメールで注文し、データ便で受け取り、料金は年度末に学会費とともに請求されるという方式のようです。

新しい色彩教材を探していらっしゃる方は日本色彩学会のホームページから、タイトル一覧表を検索してみてください。

データの形式は、パワーポイントと、PDFです。ページ数と容量(MB)が示されているので、データの大きさの見当はつきます。

「ライブラリの利用は本学会の会員に限るとされ、利用者が、自身の講義や講演での引用等、資料を非営利目的で使用する場合、当該資料を提供した者の氏名を明示すること」という制限内で自由に編集して自分の教材を作ってください。

試しに一点入手して、編集作業をしてみることをお勧めします。結果を本通信に投稿してください。(永田泰弘)

●色名に採用したい季語 - 3

ある単語が持つ意味は厳密なものではなく、広い幅をもっている。色も同様に広い幅を持っていることを認識して、ここに示す色票の色を解釈して欲しい。

●山繭色(やままゆいろ)・晩春
ヤママユ蛾が作る黄緑色の大きな繭の色。(C30Y50)



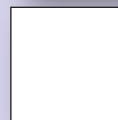
●青柳色(あおやぎいろ)・晩春
青々と茂った柳の葉の色。(C50Y60)



●石楠花色(しゃくなげいろ)・晩春
深山の溪谷沿いに咲くツツジ科の赤紫系の花。(C10M40)



●雪柳色(ゆきやなぎいろ)・晩春
小米花ともいう。白くて小さい花が雪のように咲く。(K0)



●梅雨空色(つゆぞらいろ)・初夏
梅天とも呼ばれる梅雨のどんよりとした曇り日の空の色。(K30)



●早苗色(さなえいろ)・初夏
苗代から移したばかりのみづみづしい稲の苗の色。(C40Y80)



●金雀枝色(えにしだいろ)・初夏
マメ科の小低木の黄色の蝶型花の色。(M10Y100) (永田泰弘)



●金色夜叉の色名 - 5

前号の続きとして、5) その他の色の表現の場合で記憶に残したい文言は、◇白銅鍍空気ラムプ、◇海老茶の紋縮緬のシトネ、◇クロガネの槌、◇黒麥酒、◇血紅の光、◇緋の紋緞子張の楽椅子、◇白くタイラなる天井、◇言黒(いいくろ)めたる、◇樺色無地の絹獵虎の膝掛、◇青銅の薬研などである。

明治維新から大正の時代は、鎖国から開国を経て、日本の国体を始め、文化や産業が大きく変転進歩していった時代と言える。

色名に大きな影響を与えたのが、文学である。江戸時代の木版手刷り印刷から、活版印刷に変わり、本の大量生産、全国販売が広がってゆき、教育の普及で、全ての人が文字を読めるようになったことである。

- 1868年(明治1) 戊辰戦争。
 - 1871年(明治4) 廃藩置県。
 - 1872年(明治5) 新橋～横浜間鉄道開通。
 - 1883年(明治16) 鹿鳴館落成。
 - 1889年(明治22) 大日本帝国憲法発布。
 - 1894年(明治27) 日清戦争(～1895)。
 - 1905年(明治37) 日露戦争(～1905)。
 - 1923年(大正12) 関東大震災。
- (続く) (永田泰弘)